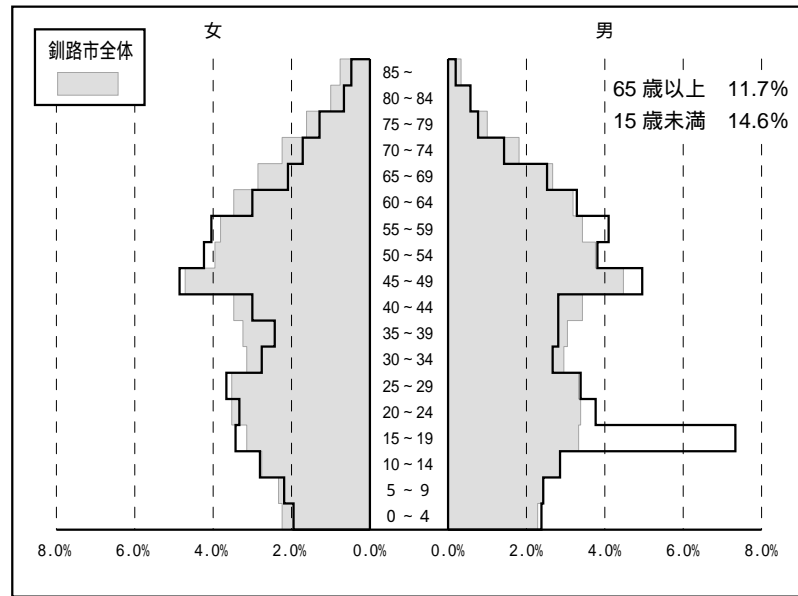


## 高齢者が少ない人口構成になっています



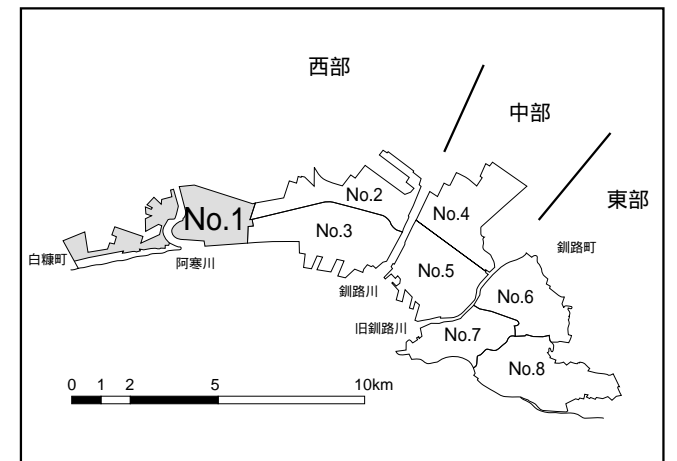
5歳階級別の人口構成を見ると、釧路市全体に対して、60歳以上と30～44歳の人口がやや少なくなっていますが、全市的な構成に近い形です。

また15～19歳の男性人口比率が突出していますが、これは釧路工業高専の学生寮があることが要因と考えられます。



# まちづくり 診断書

地区  
No.1



## 釧路の西の玄関口

### 馬市から発展し、現在は釧路の工業を支えているまちです



この地区は、釧路市の西端に位置し、釧路空港や国道38号線を利用して釧路を訪れるときの、釧路の西の玄関口に当たります。

市街地は、原始河川の面影を残す阿寒川の両岸に広がっており、阿寒川の河口付近には、はまなすの群落が今も残っています。

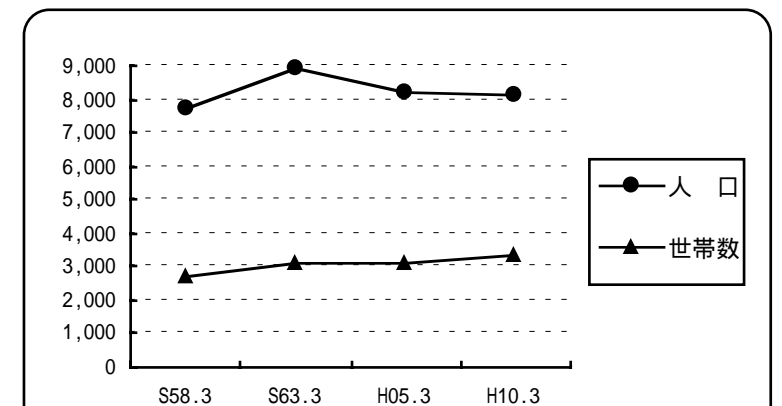
この地区は、明治44年に大楽毛家畜市場が開かれ、その後日本三大馬市に発展した歴史を持ち、現在は、製紙工場や釧白工業団地、食品加工団地などがある工業主体のまちとなっています。

### 人口は大きな増減がなく、横這いの状況で推移しています



ここ15年間の地区人口の推移を見ると、大きな増減がなく約8,000人前後の人口で横這いの状況で推移しています。

世帯数は、わずかながら増加の傾向にあります。



平成10年9月末現在の人口  
人口：8,283人  
世帯数：3,459世帯  
(住民基本台帳)

## 釧路市全体では・・・

### 人口の増減動向をみると

釧路西部の新しい住宅地の開発が進んでいる地区で増加、東部の既成市街地で減少という構図になっています。

No.5、7での減少率が大きいですが、人口密度としてはまだ平均以上の水準にあります。東部の既成市街地で、今まで高い人口密度で居住していた状態から、西部方面へ人口が移動したことにより人口密度の全市的な平準化が進んでいます。

### 人口の年齢構成をみると

高齢者(65歳以上)比率をみると、東部の既成市街地で高く、西部は低い構図となっています。しかし高齢者の実数をみると、No.2や4では比率が低くても、実際に人口が多いことから高齢者も多く居住しています。

例えば高齢者割合ではNo.4は10.7%であるのに対し、No.7は19.4%ですが、高齢者の実数では、No.4は4,327人、No.7は3,249人となります。

次に年少者(15歳未満)比率をみると、高齢者とは逆に西部で高く、東部で低い構図となっています。

これらから、東部の既成市街地では、高齢化が進み、親から独立した子供たちが新たな住宅地のある西部方面へ住宅を取得していったことが伺えます。

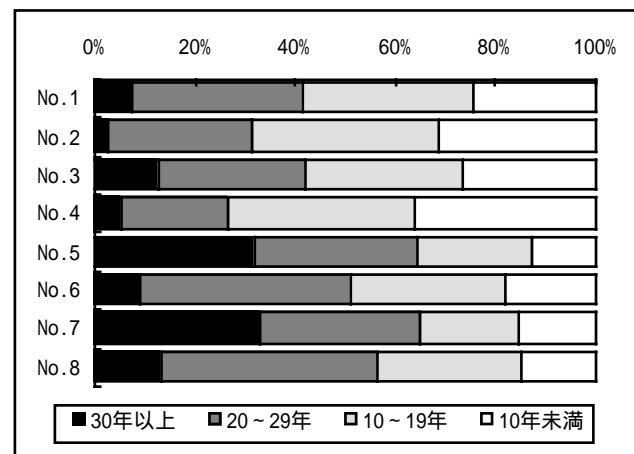
### 建物の建築年数をみると

各地区の築年数別の建物数比率を比較してみました。No.5と7で築30年以上の建物が多いのが目立ちます。東部のNo.5～8の地区では、築20年以上の建物が概ね半数以上あることが分かります。

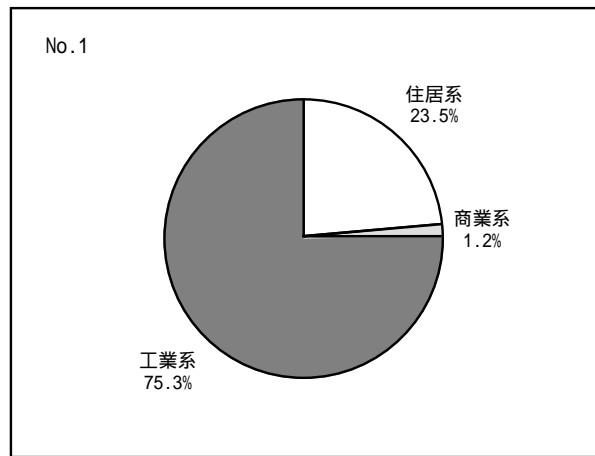
	S58.3	H10.3	S58～H10増減	
No.1	7,697人	8,160人	+463人	+6.0%
No.2	15,899人	27,937人	+12,038人	+75.7%
No.3	9,528人	8,546人	-982人	-10.3%
No.4	17,101人	40,098人	+22,997人	+134.5%
No.5	45,376人	31,703人	-13,673人	-30.1%
No.6	30,870人	25,620人	-5,250人	-17.0%
No.7	24,136人	16,880人	-7,256人	-30.1%
No.8	43,021人	32,795人	-10,226人	-23.8%
全市	216,651人	195,043人	-21,608人	-10.0%

	65歳以上		15歳未満	
No.1	972人	11.7%	1,207人	14.6%
No.2	3,120人	11.1%	4,786人	17.0%
No.3	1,161人	13.5%	1,407人	16.3%
No.4	4,327人	10.7%	7,065人	17.4%
No.5	5,587人	17.6%	4,216人	13.3%
No.6	4,288人	16.7%	3,541人	13.8%
No.7	3,249人	19.4%	2,057人	12.3%
No.8	5,845人	17.8%	4,338人	13.2%
全市	29,039人	14.8%	29,127人	14.9%

H10.9末現在

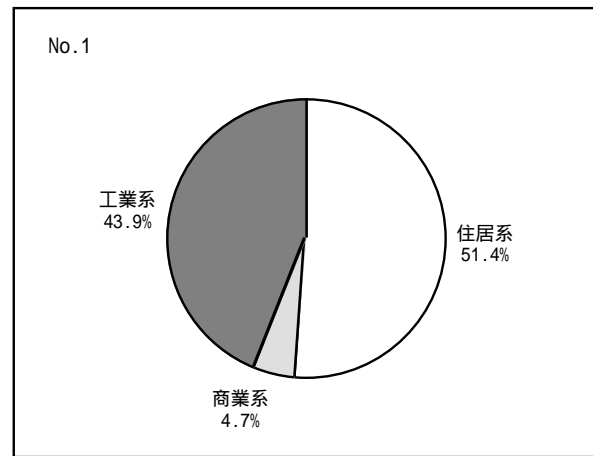


地区の大半が、工業系の用途地域\*に指定されています



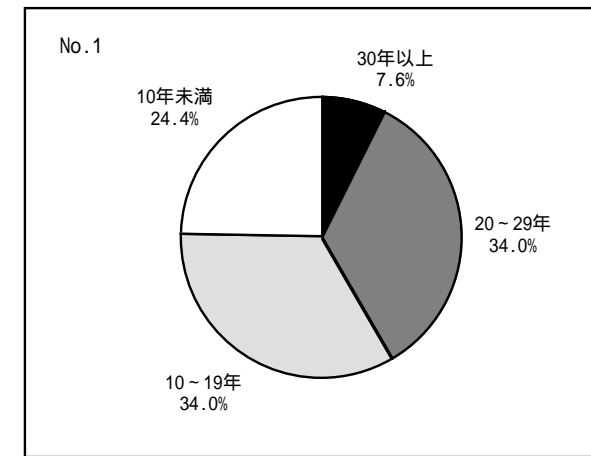
工業系の用途地域が75.3%を占め、工業主体の地域となっています。  
残りのほとんどが住居系で、商業系は大楽毛駅周辺の国道38号沿いのみ指定されています。

建物は用途指定と比べると住居系が多く、工業系とほぼ半々となっています

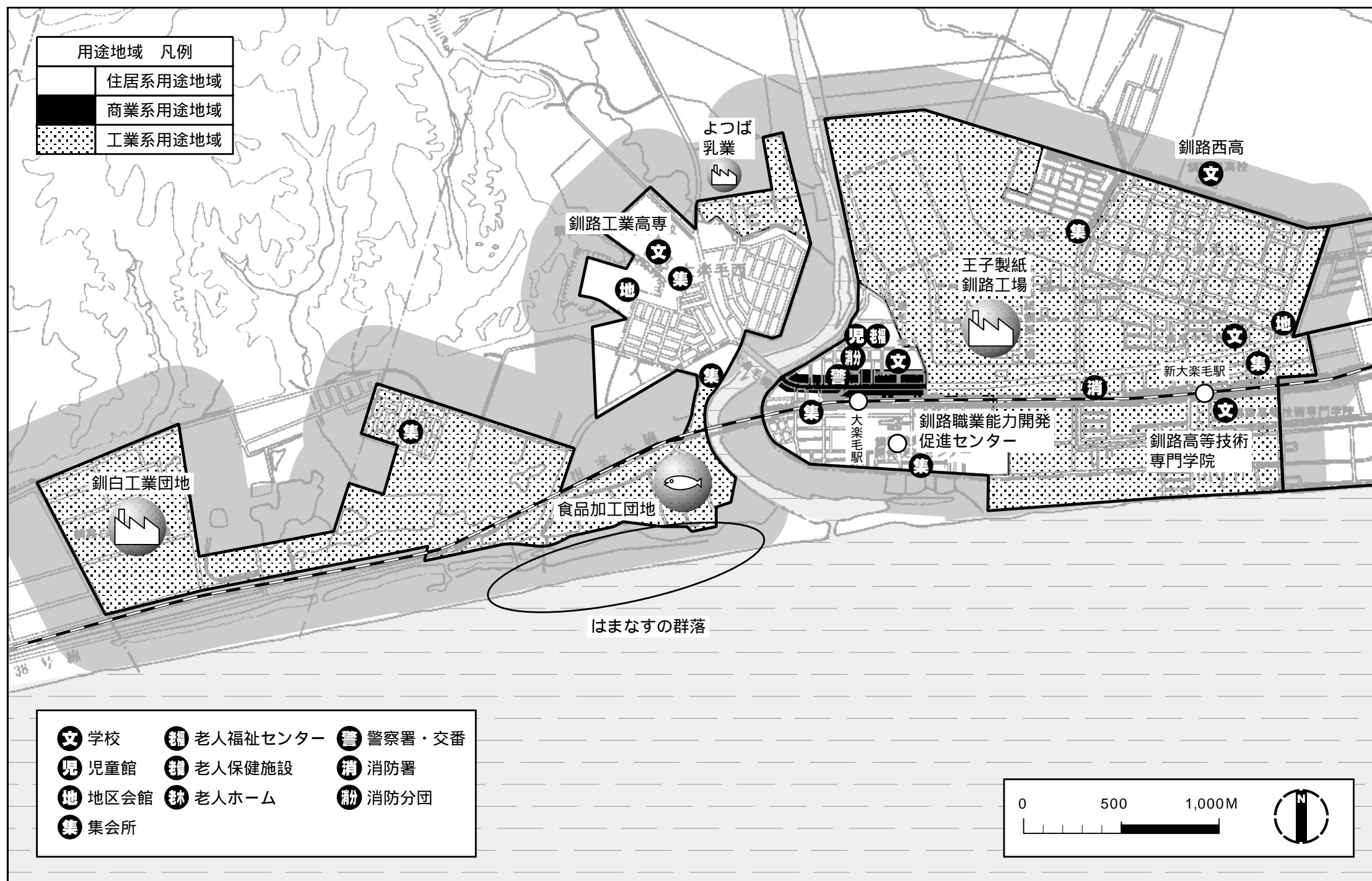


実際に建てられている建物の延床面積を用途別に分けて見ると、用途地域指定と比べると住居系が多く51.4%、工業系は43.9%とほぼ半々となっています。

比較的新しい建物が多く見られますが、そろそろ更新時期を迎える建物も多い地区です



築年数別の建物の数を見ると、築20年未満が58.4%と半数以上を占めますが、築20～29年が34.0%、築30年以上が7.6%と更新時期を迎える建物も少なくありません。



公共公益施設は、住居系用途地域に主に配置されています

工業系用途地域の一部で、住宅の立地がみられます

工業系の土地で、まだ利用されていない土地が多く残っています

阿寒川やはまなすの群落など豊かな自然が残っています



\* 都市計画では、「用途地域」を指定して、その土地に建てることのできる建物の大きさや用途などを法律で制限しています。用途地域は全部で12種類あり、大きくは「住居系（7種類）」、「商業系（2種類）」、「工業系（3種類）」の3つに分けられます。